

# 万人坑を知る

——日本が中国を侵略した史跡

李秉剛 著  
張玉彬 胥敏 訳

東北大學出版社

# 万人坑を知る

——日本が中国を侵略した史跡

李秉剛 著

張玉彬 胥敏 訳

東北大学出版社

瀋陽

© 李秉刚 张玉彬 胥敏 2005

图书在版编目 (CIP) 数据

万人坑——日本侵华的历史遗迹 / 李秉刚著. 张玉彬, 胥敏译. — 沈阳: 东北大学出版社, 2005.9

ISBN 7-81102-177-3

I. 日… II. ①李… ②张… ③胥… III. 日本—侵华—史料  
IV. K265.306

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2005) 第 083013 号

---

出版者: 东北大学出版社

地址: 沈阳市和平区文化路 3 号巷 11 号

邮编: 110004

电话: 024—83687331 (市场部) 83680267 (社务室)

传真: 024—83680180 (市场部) 83680265 (社务室)

E-mail: neuph@neupress.com

http://www.neupress.com

印刷者: 沈阳市政二公司印刷厂

发行者: 东北大学出版社

幅面尺寸: 150mm×225mm

印张: 13.375

字数: 192 千字

出版时间: 2005 年 9 月第 1 版

印刷时间: 2005 年 9 月第 1 次印刷

责任编辑: 李红艳 向荣

封面设计: 唐敏智

责任出版: 杨华宁

---

定 价: 49.00 元 (日元 1000)

# 目次

## 前書き

—— 忘れるべきではない歴史 ..... 一

## 血と火の征服

—— 日本軍の大虐殺と万人坑 ..... 六

旅順大虐殺の万人坑 ..... 六

平頂山虐殺事件の万人坑 ..... 一二

新賓北山の万人坑 ..... 一八

承德水泉溝の万人坑 ..... 二四

南京江東門の万人坑 ..... 三〇

厂窖虐殺の万人坑 ..... 三三

## 人命より鉞山を重んじる

—— 日本の経済掠奪と万人坑 ..... 三八

撫順炭鉞の万人坑 ..... 四一

本溪炭鉞、鉄鉞山の万人坑 ..... 四八

大石橋マグネシウム鉱山の万人坑	五四
遼源炭坑の万人坑	五九
鶴崗炭鉱の万人坑	六五
弓長嶺鉄鉱の万人坑	六九
阜新炭鉱の万人坑	七四
北票炭鉱の万人坑	八〇
鶏西炭鉱の万人坑	八六
大同炭鉱の万人坑	九二
龍煙鉄鉱の万人坑	九七
井陘炭鉱の万人坑	一〇三
淮南炭鉱の万人坑	一〇八

石碌鉄鉱の万人坑	………	一一三
形を変えた虐殺		

——大型工事と万人坑	………	一一九
東寧要塞工事の万人坑	………	一二〇
虎頭要塞工事の万人坑	………	一二六
黒河と附近の要塞工事の万人坑	………	一三二
ハイラル要塞の万人坑	………	一三八
水豊水力発電所工事の万人坑	………	一四三
豊満水力発電所工事の万人坑	………	一四七
八所港の工事の万人坑	………	一五三
竜王廟軍事工事の万人坑	………	一五八
乱石山軍事工事の万人坑	………	一六五

監禁と死亡

——捕虜の強制収容所と万人坑……………一七〇

石家庄強制収容所の万人坑……………一七〇

濟南「新華院」と琵琶山の万人坑……………一七六

塘沽強制収容所の万人坑……………一八一

燃えた怒りの火

——被害民衆の反抗と抗争……………一八七

日本軍の大虐殺への反抗闘争……………一八七

普通労働者の反抗闘争……………一九二

「特殊労働者」の抵抗……………一九九

あとがき……………二〇八

## 前書き

### ——忘れるべきではない歴史

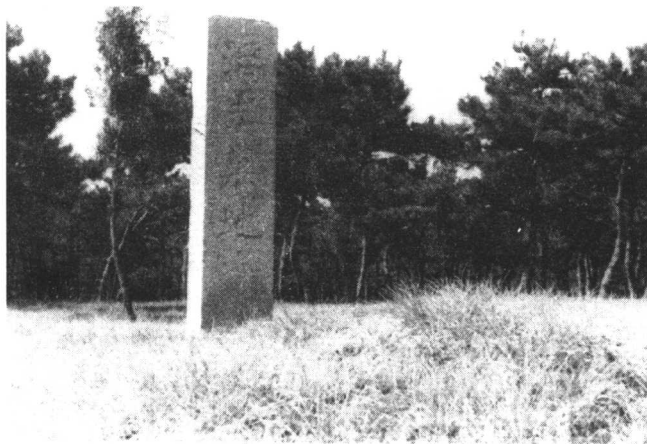
読者の皆様、あなたは数千人、数万人の死者が同じ所に集めて埋められた怖い場面を見たことがあるか。これは中国の多くのところで保存された歴史の遺跡——万人坑である。

万人坑とは非正常の死亡者が大規模に埋葬された場所である。万人坑に埋葬された者は葬儀もせずに非正常の死亡者である。中国では昔から亡くなった者は家族の墓地又は公の墓地に埋葬される風習があった。万人坑も単独で埋める者があるが、大多数は重ねて埋めるとか、やたらに葬るとか、死体をそのまま荒野に捨てるのがほとんどである。万人坑の「万人」とは確実の数字ではなく、数多く埋葬された言い方である。遺骨の少ないほうは千人で、多い場合は数千人、万人もあった。中国国内の北の黒龍江から南の海南島まで、日本軍が長期に占領した所では万人坑がある。つまり、万人坑は日本の中国侵略と関係があり、日本が中国を侵略した歴史の遺跡と罪の証拠である。

万人坑を見た人がその中にある姿の違った遺骨にショックを受けるだろう。万人坑に重ねた白い遺骨、特に生を求めて、本能的に口を開けて、上へ上がる姿勢、背中を屈めてもがいている姿、針金に結ばれ、鉄の手かせや足かせをかけられ、又は頭蓋骨が砕かれた模様……死ぬ直前の姿勢は中国人民を虐殺し、酷使した日本帝国主義の侵略の罪を訴えている。

しかし、日本歴史研究委員会の専門家たちは『大東亜戦争の総括』という本を編纂した時、「中国は万人坑があると主張している。あると言ってもそれはやたらに人骨を集め、撫順の炭坑に置いて、日本軍が虐殺したものだという」、「中国は親日の感





遼寧省阜新炭坑で日本人の造った「満炭墓地」——孫家湾の南山万人坑

情を抑えるために日本人が中国人を生き埋めにしたとの嘘について、いたるところで万人坑を造ったのだ」と言った。所謂歴史に明るい日本人でも白黒を逆らう言論をするのは全く恥じという言葉を知らないのだ。事実は雄弁に勝る。真相を知りたい方々は本書を読んでいただき、万人坑を一つ一つ辿ろう。

輝かしい歴史でも、屈辱的な歴史でもその民族は自分の歴史を忘れるべきではない。光栄な歴史でも、醜い歴史でも責任を持つ国家はそれを避けるものではない。歴史を負担として抱えて、或は長い間歪んだ歴史の中で生きている者が歴史を認めるのは容易なものではない。日本では、軍国主義者の起こした侵略戦争の罪に対して、徹底的に清算していないので、数多くの日本人は日本侵略者が中国とアジアでの罪が分からなくて、万人坑はどういうものかほとんど分からない。これもおかしい事ではない。武力によって直接中国人を虐殺した日本軍人、警察、憲兵、スパイなどと鉱山、工事現場で直接に連行された中国人を監視する少数の日本人だけが大量の中国人の死亡の事



山西大同炭坑の南溝万人坑の一部

実がわかるのである。しかし、直接又は間接に万人坑を造った日本人はこの鉄の事実を簡単に認めるものではない。

しかし、事実を知らなくても、認めなくても、万人坑が確実に存在している。日本帝国主義の侵略で形成された多くの万人坑について一番よく知っているのは日本侵略者に虐殺され、酷使され、そして幸い生存した人々とその家族たちである。彼らはこの戦争の直接の被害者で、彼らの親族と同僚の遺骨は万人坑に埋められている。万人坑から逃げて、命を拾った人もいた。以下は撫順老虎台炭鉱の生存者柳文科氏の追憶録を読んで、万人坑はどういうものか分かるだろう。「ある日、炭坑が崩れて、中には火事になった、出口は既に封じられ、多くの人が封じられた炭坑の出口の所に這って出られない。炭坑の中にいたら火に焼かれて死んでしまうものだ。火がもうすぐ身の周りに来る。私は尿でタオルを潤し、体を包んで、斧で封じられた出口の板を切った。板を二枚切って、私は一本の足を外に出したところ、鬼子が木の棒で私の頭を打った。私は斧で迎えて、木の棒が折れた隙間を見て逃げ出した。私の後について六人が出てきた。住んでいた長屋がもう住めないので、104号の

長屋に走りこんだ。

長屋のオンドルの火が焚いていなかった。私は炭坑から一本の導火線を手にして、10キロあまりの石炭を背負って、オンドルの火をつこうと思った。出口のところで大票(監視人)、腿子頭(手先の頭のこと)に出会った。それで、私は矯正輔導院に連れられ、犬の小屋に入れられた。1メートル前に数匹の犬が私を囲んで睨んでいた。矯正輔導院の外で日本人の哨兵が立っていた。涙を流しながらもうすぐ死ぬのだと思った。しばらく経って、日本人の哨兵はどこかへ行った。私はこそこそ犬の小屋を出て、長屋に戻った。

当時の撫順炭鉱では入ってこられた人が、外には出られなかった。ある日、十数人が選ばれて、石を担いで、道路を整備した。私もその中にいた。午前十時ごろ、三人が逃げたが、鬼子に捕まれて、新屯の後の山に生き埋めをされた。十数人の日本兵が監視した。初めは二人で穴を掘り、一人を生き埋めにした。その後、一人が穴を掘り、あとの一人を生き埋めにした。最後の一人は自分で穴を掘らせられた。



撫順老虎台炭坑の生存者柳文科

た。その人は地に膝を突いて、頼んだ。鬼子が銃剣で刺した。血が出てきた。私はそれを見て涙が出た。それが鬼子に見つかり、「なぜ涙を流したか」「生き埋めに賛成しなければ、一緒に埋めよう。」と怒鳴った。そして、私の足に銃剣で刺した。ちょうどその時、陳方林さんが石を担いで来た。陳さんは鬼子に「柳は私の友達だ」と言ったので、鬼子が銃の柄で私を殴って、放してくれた。その後に陳さんが私に言った。「この命をただ

でかけたじゃないか。いくら泣いてもあの人は助からないのだ。私がもう少しおそく来たら、お前が死んだぞ。」と言った。

鄭という友達が病気になった。その日、炭坑に入らなかった。私が炭坑から長屋に帰って見ると、鄭さんはもういない。当番の人に聞いたら、トイレに行ったと言った。私は長屋の周りを探したが誰もいなかった。一人の子供が私を教えてくれた。鄭さんは既に台車に乗せられてどこかへ運ばれた。乗せられる前に、鄭さんは「まだ生きている、死にたくない」と叫んだ。台車を押していた人は「遅かれ早かれ死ぬのだ」と言ったそうだ。それを聞いて、私は万人坑へ走っていった。そこに着いて、犬3匹が私に吼えた。私が犬を追い払って、呻き声を聞いた。私は四、五人の死体を移したら、その下に鄭さんがいた。鄭さんに少し水を口に入れ、息を吹き返して、背負って長屋に帰った。二、三日経って、彼が歩けるようになった。」(柳文科氏は1921年生まれ、山東新台の人、老虎台炭鉱で働いて、今は停年退職。柳文科氏の追憶録が1999年に整理され、今は撫順市社会科学院に保存されている)

上記の短い思い出は柳文科氏の経験したことで、日本侵略者が占領した時代に、中国の炭鉱の労働者の暮らしを描いた。中国人労働者には命の保証がほとんど無い。これも数千人数万人の労働者が死亡し、万人坑を形成した原因である。

万人坑は大体日本侵略者の虐殺、資源の掠奪と大型の工事によって数多くの人々の死亡で形成されたものである。本書はこの事実を簡潔に紹介して、読者の皆さんにこの歴史について更に詳しく知ってもらいたいためである。

歴史は忘れるべからざるものである。正確な歴史の認識は中日両国人民が長期的に安定した隣国の友好関係を保つための重要な基礎である。日本の方々が万人坑を通して、日本帝国主義が当時、中国を侵略した醜悪の歴史を認識し、中日両国の国民が歴史を更に詳しく分かっていたら、歴史の悲劇を繰り返さないように努力する。

# 血と火の征服

## ——日本軍の大虐殺と万人坑

日本軍が中国を侵略した期間、中国人民を征服し、中国の領土を占領するために、そして、侵略を維持するために、占領区で中国人を虐殺し、数多くの万人坑を残した。戦争は殺害や死亡と繋がるものであるが、万人坑の中の死者は戦場で戦って死んだ兵士ではなく、武器を放棄した軍人、数多くの普通の人である。これは日本の侵略者が戦争の基準、国際法に違反し、中国人民に対して犯した大きな罪悪である。

日本が中国を侵略した大規模な侵略戦争は 1894 年の甲午戦争から始まったのである。陸地の戦場で日本軍が金州、旅順などの戦略要地を占領したと同時に、虐殺を始めた。特に 1894 年 11 月 12 日に日本軍が旅順を占領し、見た人を全部殺した。武器を放棄した清の兵士と旅順市内の百姓 2 万人余りを殺し、日本は中国を侵略して、初めての万人坑を造った。それから、1931 年の中国東北を侵略した戦争、1937 年からの中国侵略の戦争の中で、日本軍が行く所で虐殺の万人坑を残した。本章の中で、旅順、平頂山、新賓、承德、南京と厂窖等の万人坑を紹介する。

### 旅順大虐殺の万人坑

1894 年の甲午戦争期間中、日本軍が旅順を占領してから、旅順の百姓を虐殺し、万忠墓など中国の大地で初めての万人坑を造った。

1894 年 7 月、日本軍は中国の海軍、陸軍を突然攻撃し、戦争が始まった。9 月に中国の陸、海軍がピンヤン戦役と黄海戦役で失敗した。10 月に日本軍が大連の庄河花園口で上陸し、相次い

で貔子窩、金州、大連湾を占領した。11月21日に旅順を占領した。それから、日本軍がすぐ百姓の家を捜査し、会った人を殺し、女性、老人、子供でも虐殺の悪運を免れなかった。

大虐殺の生存者鮑紹武は追憶録の中で次のように語った。光緒二十年十月二十四日(1894年11月21日)日が暮れてから日本軍が旅順市内に侵入した。上溝あたりではどこでも叫び声や泣き声が聞こえ、耳に聞ききれなかった。日本軍が西の方へ捜



旅順大虐殺の元凶日本軍の師団長山地元治

査しながら人を殺した。夜中ごろ太陽溝の西への道のあたりに来た。私の家はそちらにあった。当時、家族が9人だった。日本軍が戸を破って入ってきた。人を見つけて殺した。私は家の天井の上に潜んだので、殺されなかった。日本軍が離れて、私は天井から降りて見ると、家族全員が殺された。私は家族の死体を埋める余裕もなく逃げ出した。將軍石(現在の解放橋あたり)で鬼子に捕まえられ、兵隊に連行された。兵隊には既に中国人が十数人いた。日本軍が私たちのお下げを二人ずつ一緒に結んで、どこかへ連れて行くようだ。「今度こそおしまいだ。」と私は心の中で思った。突然、一人の日本軍が何かを言った。私たちはまた連れ戻された。私たち12人が兵隊に残されて、水を担いだり、柴を切ったり、掃除をしたりした。光緒二十一年二月(1895年3月)、天気がだんだん暖かくなり、多くの死体まだ埋めなか

ったので、腐り始めた。日本鬼子が伝染病の流行を心配したので、八、九十人を捕まえ、死体を運んだ。私も捕まえられた。私は死体を運んだ時に、同胞たちが殺された惨状を目にした。上溝の店の中で管理人が机に伏せて、鬼子に殺された。もっと

惨めな家があった。その家ではオンドルに母親と子供四、五人が殺された。大きいほうが八、九歳で、数ヶ月の赤ちゃんが母親の乳を飲んでいたところを殺された。大部分の人は家のドアのあたりで殺された。鬼子が来て、戸を開けた時に殺されたのである。死者がほとんど老人、女性と子供だった。(鮑紹武氏は旅順口の人、この追憶録は1963年に林基永氏の調査記録で、旅順博物館に保存)

日本の記者と軍人が日本軍の旅順虐殺に関して、客観の記録を残した。『万朝報』の新聞記者の杉山豊吉さんが新聞社に「旅順通信」の中で次のように書いた。旅順で「私が巡視して見たように、市内では六、七十名だけの百姓がいた。」(『万朝報』、1894年12月20日)日本軍が日本への手紙の中で書いた。「市内では日本兵ばかりだ。死体のほかに支那人が見つからない。この支那人がほとんど絶滅した。」(日本『中央新聞』、1894年12月27日)



旅順大虐殺の一

西洋の新聞記者や戦争の経験者が旅順の大虐殺を目にして、いろいろな方法で日本軍の暴行を報道し、記述した。アメリカ

の『ワールド』の新聞記者のクリマン氏が1894年に日本軍について中日甲午戦争の戦場に来た。日本軍が旅順での大虐殺を見た。そして、それを長い文章に書いて、1894年12月20日の『ワールド』に載せた。「旅順のすべての人が日本軍に殺害された。連日に武器の無い平和の住民を数多く殺し、死体や手足が巷に満ちた。」当時旅順で商売をしていたイギリスの商人のジェムス・エロン氏も次のように書いた。「町の様子が怖かった。血が地に透かして、いたるところに手や足の無い死体だ。狭い巷に死体で完全に塞がれた。」(『龍の旗の下で——甲午戦争体験記』鄧俊秉、馬嘉瑞訳。『近代史資料』に載せた、中国社会科学出版社、1985年第57号)



旅順大虐殺の二

日本軍は大虐殺をしたと同時に、女性に人間性の無い暴行をした。白髪の老人、妊娠している婦人、十数歳の子供にも暴行を加えた。そして、暴行を受けた女性は殺されたり、死ぬまで蹂躪されたりして、死体が晒された。残虐の程度は前代未聞



だ。日本軍の獣のような暴行を見たり聞いたりした人は日本軍に歯軋りをして恨んだ。元々日本の中国侵略を支持した西洋人も日本軍を最悪する事は出来なかった。イギリスの有名な法学者のフランド博士が『中日戦争の国際公法』の中で、次のように書いた。「当時の日本の行動は確かに常軌を脱した……。日本軍は勝利を取った当日のほかに、次の日から4日間で平民と女性と子供を野蛮に殺害した。」(フランド:『中日戦争の国際公法』、陸奥宗光の『蹇蹇録』中国語版の63—64ページ)中国と外国の資料をまとめて、日本軍が旅順での大虐殺の中で、武器を放した清の兵士を2500人、平民は1万8千人、合計約2万人殺害した。この数字は金州などの被害者を含まない。

日本軍が旅順の大虐殺の後に、11月の下旬から旅順市街の被害者の死体を整理し始めた。1895年の初め頃、死体を白玉山の



1994年発掘した元万忠墓の一部の遺骨

東の麓、船舶を修理した古い窯のところ(今の順山街の溝里)、黄金山の東の麓の3ヶ所に集めて焼いた。白玉山の東麓即ち現在の万忠墓あたりで焼いた死体が一番多かった。死体を焼